



Via Latina 22

2025 年 10 月 346 号

総本部よりのお知らせ－マリア会

内 容

東アフリカ地区での初誓願式と終生誓願式	1
聖年の「若者の祭典」にマリアニストの若者がローマに集まる	3
ローマのシャミナード神学校	4
マリア会の「総長職」に関する検討委員会	5
総長評議員会が 2 年目をネミでの黙想でスタート	6
IMRI 研究者がマリア調査研究を分かち合うため Via Latina を訪問	7
若いスペイン人教師グループの訪問	8
第 41 回 世界マリアニスト祈りの日	9
聖なる神の民を志向するマリア会の『生活の規則』	9

東アフリカ地区での初誓願式と終生誓願式

2025 年 8 月 2 日、東アフリカ地区は大きな喜びをもって次の 5 名の初誓願式を執り行いました：Joel Agayo Obilo 士、Alphonse Odhiambo Oluoch 士、Geoffrey Odiwuor Otieno 士、Kenneth Mung'enti Murithi 士、そして Yoakim Kazembe 士です。

誓願式はケニアの首都ナイロビのすぐ近くにあるリムルの修練院の庭に設置された仮設テントで行われました。マリアニスト修道者とケニア出身の修道者の家族メンバーが参列しました。マラウイ出身の Yoakim 士は Kenneth 士の家族に合流しました。MLC のメンバーたち、修練者とマリア会になじみの他の修道者たち、修練者の使徒活動の地域－活動基地、ナザレ病院、聖パウロ大学のカトリック学生同盟－の代表者たちが誓願式に参列しました。



前列 左から右へ：Yoakim Kazembe, Kenneth Mung'enti Murithi, Joel Agayo Obilo, Alphonse Odhiambo Oluoch, Geoffrey Odiwuor Otieno 後列：地区長評議員会：Godfrey Ssenyomo 士, Innocent Chikwanda 士, Stephen Wanyoike Mburu 師, Michael Otieno Ochieng'師

地区長、Stephen Wanyoike 神父はその説教で、5名の初誓願者たちに対して、常にイエスとイエスの母マリアに焦点を定めるよう促し、激励しました。福音書の中の無名の召使いのように、彼ら5名は主が言われることは何でも行うようにとのマリアの勧めに信頼せねばなりません、イエスは成果をご存じなので、たとえその勧めが意味のないように思われても信頼しなければならないのです。勿論のこと、祝賀会はすばらしい昼食、ケーキカット、そしてダンスと続きました。



左から右: Justin Mwaniki Njue 士, Emmanuel Mwakabanga 士, Simon Cyrus Njenga 士と Erick Odhiambo Otiende 士

2025 年 8 月 16 日、東アフリカ地区は次の 3 名の新たな終生誓願者の誕生を祝いました— Emmanuel Mwakabanga 士、Justin Mwaniki Njue 士、そして Simon Cyrus Njenga 士です、彼らはケニア、リムルのマリアニスト修練院で終生誓願を宣立しました。この同じ式典の間、Erick Odhiambo Otiende 士が誓願 25 周年を祝いました。地区長、Stephen Wanyoike 神父が司式司祭を務め、誓願を受け入れました。

他のマリアニスト修道者、家族メンバー、信徒マリアニスト、そしてケニアの異なる地域からの信徒たちが、終生誓願者と誓願 25 周年者とこの式典を共にしました。

皆さんにおめでとう申し上げます！

聖年の「若者の祭典」にマリアニストの若者がローマに集まる

教会の「若者の祭典」に、日本、韓国、フランス、スペイン、イタリア、USA、トーゴそしてペルーから 150 名以上のマリアニスト若者がローマに集まり、7 月 31 日から 8 月 2 日の 3 日間、祈り、考察、そして共同体の体験をしました。

この集まりは、若者たちをマリアニスト・カリスマにもっと深く関わらせるために、2024 年 7 月の総会で最初に思い描かれました。そしてこのビジョンがこの夏にローマで実現されたのです。

初日、7 月 31 日木曜日は、「アイデンティティ」に焦点が当てられました。参加者はマリアニスト学校“サンタマリア学院”に集まり、「私は誰か？ 私たちは何者か？」というテーマについて考察しました。「人々の前で《私たちは神のみ前に生きる者》となりましょう」との福者ギヨーム・ヨゼフ・シャミナードの言葉に着想を得て、参加者たちは祈り、聖書を分かち合い、そして、シンボリックな品物で自分たちの国を紹介しました。



サンタマリア学院にて

2日目、8月1日金曜日は、Via Latina 総本部での6つの活動を通して、マリアニスト・カリスマに焦点を当てました：①福者シャミナード、福者アデル、そしてマリアニスト殉教者の聖遺物のそばでの祈り；②若いマリアニストの証し人、ファウスティーノ・ペレス・マングラノとミゲル・キロガについて学ぶこと；③自分たち自身の将来へ希望のメッセージを書くこと；④マリアニスト・アイテム探しのゲーム；⑤一緒にアイスクリームを楽しむこと、⑥スペイン伝統ダンスを体験すること。



マリア会総本部にて

3日目8月2日、土曜日は宣教に焦点が充てられました。カナの婚宴についての福音書に導かれ、若者たちは祈り、それぞれの言葉で共同祈願を捧げ、マリアニスト精神を家に持ち帰る決意を表明しました。この日はトルヴェルガタでの100万人もの若者が合流した教皇レオ14世との夜の集いで終了しました。

この体験を通して、全世界のマリアニスト共同体が若者と関わる自分たち自身の物語を分かち合い、「いのちの約束の道を歩み」続け、第36回総会のビジョンを活性化するように、インスピレーションが与えられることを私たちは期待します。この3日間の活動の調整と指導を手伝ってくださったマリア会員とFMIのシスター方に特に感謝します。

ローマのシャミナード神学校

今年、ローマのシャミナード神学校共同体は新学年をフランスとスペインのマリア会創立の場所への巡礼の旅で始めました。これは神学校で3年毎に行われる1つの活動となっています。今回は、9月6日から16日にかけて行われました。この巡礼はボルドーから始まり

ペリゲー、ムシダン、そしてアジャンへと続けました。そしてボルドーから、1936年に殉教した4人の会員とドミンゴ・ラサロ神父の墓があるマドリードに向かいました。次の目的地は、シャミナード神父が亡命した都市であり、「柱の聖母」大聖堂があるサラゴサでした。これらの巡礼の旅は私たちの起源とマリアニスト聖性の証人たちと出会う中味の濃い日々でした。これらの訪問に加え、私たちの霊性の重要なテーマをめぐって、十分な黙想と祈りの時間がありました。



マドレーヌの福者シャミナード礼拝堂に集まった巡礼者たち 左から右へ: Jerin J. Pananthanam (IN), Raoul Rouamba (Burkina Faso, IV), Miguel Ángel Cortés, 校長 (ES), Hervé Dagbo, 副校長 (IV), Emmanuel Saopa (Malawi, EA), Roméo Angba (IV), Daniel Orellana (Chile, LA), Nicolas Assogba (TO), Christophe Mbonde (DR Congo, FR), Henri Baragou (TO), Epidius Ngosa (Zambia, EA), Antony Owino (Kenya, EA), Patrick Cahill (United States, ME), Yves Agbadou (IV), Gilbert Okade (Kenya, EA), Juan Pablo Espinoza (Mexico, US)

訪問したすべての共同体：マドレーヌ聖堂共同体、アジャンの FMI 共同体、マドリードの柱の聖母学院共同体、そしてサラゴサの柱の聖マリア学院共同体で神学生たちが受けた熱烈的な歓迎について特記します。神学校共同体は彼ら全ての人たちと祈りと食事を分かち合い、そして彼ら皆の中に心からの歓迎を感じました。加えて彼らは、これら共同体が存在している様々な状況において果たしている貴重な福音宣教活動について学ぶことが出来ました。マドリードでは、彼らはマリアのみ名の保護の祝日をこの町の全マリアニスト家族と共に祝う機会を持ちました。

マリア会の総長職に関する検討委員会

皆さんが承知のように、私たちの先の総会はマリア会の総長職に関する考察を開始したいと望みました（いのちの約束、78）。私たちの会則によると、総長は司祭でなければなりません（『生活の規則』、97条）。しかし、教皇フランシスが2022年5月18日の聴聞詔書において聖職者修道会がブラザーを総長として選ぶ可能性を公にしたのではあるが、”自由裁量

的に、また個々のケースで”、私たちは最後の手段としてこの可能性に頼る状況でしょうか？ 例外的、あるいは恒久的な可能性としてでしょうか？ シャミナード神父から今日に至る私たちのカリスマ的伝統は、私たちがそうすることを裏付けているのでしょうか？ マリア会の統治にとって、総長としてブラザーを選ぶ結果はどのようなものなのでしょうか？



会議中の委員会の 3 人のメンバー：上から下へ: Manuel Cortés 師 (スペイン; Michael McAward 士 (メリバ、リーダー); Erik Otiende 士 (東アフリカ、総本部)

この課題について検討を進めるため一つの委員会が総長評議員会によって設置されました。この委員会は 3 名の修道者から構成されています：Michael McAward（メリバ、リーダー）、Manuel Cortés（スペイン）、Erik Otiende（東アフリカ、総本部）。彼らは 9 月 18 日、オンライン会議でその任務を開始しました。10 月に彼らは集まって会議を持ちます。私たちはこの重要な任務に従事している彼らを励ましたいと思います。

総長評議員会が 2 年目をネミでの黙想で開始

総長評議員会はその 2 年目の任務を準備するため、2025 年 9 月 16–18 ネミ（ローマから約 30 キロにある）の Ad Gentes センターで、祈り、考察、そして計画の 3 日間の黙想会を持ちました。この 3 日間で、初年度から学んだことについて考察し、現在の優先事項を特定し、そして、マリア会が直面している様々な複雑な問題の最中であって、焦点を定め持続したエネルギーを持ってマリア会を導く方法を探りました。霊的会話の方法は、評議員会がその任務を忠実に果たせるように、聖霊に導かれて、考察から具体的な優先順位と具体的な実行へと移行する助けとなりました。



左から右：ジェローム士, アンドレ師, パブロ師 とデニス士

創造性と刷新に取り組めるよう、総長評議員会は水曜日の朝と木曜日の午後に散歩に出ました。自然の中でのこれら時間は、複雑な議題に関して、環境の変化から得られる気分転換、動き、そして継続的な会話をもたらしました。黙想会中の話し合いは、協力、具体的な方法、そして長期ビジョンと、共同の祈りと食事の時間とのバランスを執りました。木曜日夜、晩課の間、評議員会は 2024 年 7 月の第 36 回総会での就任式に表明したその誓いを更新しました。昨年始まったこの年次の黙想会は、チームとしての総長評議員会を強化し、その奉仕の任務を方向付けします。私たちは、全ての行政単位の評議員会が目的を更新し、リーダーシップを深めるために、同様の集まりを持つよう勧めます。

IMRI 研究者がマリア研究を共有するため Via Latina を訪問

デイトン大学の教授で、国際マリア研究所（IMRI）の所長 Neomi De Anda 女史と、研究教授 Gloria Falcão Dodd 女史が最近 Via Latina を訪問しました。ローマで9月3日から7日にかけて開催された第26回国際マリア学会の期間中、総本部に滞在しながら、彼らはIMRIの活動を分かち合い、そして世界各地からの大学教員たちと出会いました。





1974年に創設されたIMRIは、1943年に設立されたデイトン大学のマリア図書館に由来しており、マリアニスト歴史の重要な段階を刻んできました。この図書館はマリア研究にとって重要な源泉となっており、神学、信心、歴史的なマリア信心、そして現代の信仰におけるマリアの役割などの分野でIMRI活動を支えてきました。学生と研究者たちはマリア的芸術を学び、歴史的信心を探究し、そして様々な文化におけるマリアの影響を調べます。

多くのマリアニスト修道者とマリアニスト家族メンバーがここで学び、資格免許或いは修了証書を入手し、学識研究と職務遂行に貢献してきました－私たちはこのような影響があることを光栄に思い、また影響を持ち続けたいと思います。

IMRIは、講演、展示会、討論会、マリア図書館研究誌、そして、ラジオ・マリアで制作されている《すべてのマリアに関する事柄》という放送を通して、その資料を分かち合っています。この毎週のシリーズは専門家、卒業生、そしてマリアニストの話題を話し合うIMRIの友人たちを対象としており、聴取者は次のホームページでそこにアクセスでき、計画についてもっと学ぶことができます：<https://udayton.edu/centers/imri/index.php>

若いスペイン人教師グループの訪問

8月28日、私たちはスペインのマリアニスト学校から35名の若い教師グループをVia Latina 22施設に歓迎しました。彼らは3名のマリア会員に引率されていました：スペイン管区の2名の管区長補佐（Paco Sales 神父とLander Gaztelumendi 士）、そしてブラジル共同体のGustavo Pollon 士。



サンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂の前の教師と修道者のグループ

管区長評議員会のこの行動計画は、若者の司牧に関する先の総会の呼びかけに応えるものであり、また聖年にあたり5日間のローマ巡礼でもありました。

Via Latina の訪問の間、彼らはアントニオ・ガスコン神父に案内されて総本部資料室を訪れることが出来ました。彼らはまた、総書記、ホセ・イグナシオ・イグレスシア士、そして霊生局長、パブロ・ランボー神父と会議を持ちました。それからこのグループはミサに与り、私たちの素晴らしいテラスで夕食を一緒に取りました。

第 41 回、世界マリアニスト祈りの日



今年、第 41 回世界マリアニスト祈りの日は 2025 年 10 月 12 日に執り行われます。この日に全世界マリアニスト家族がローマのサンタ・マリア・マッジョーレ大聖堂の Salus Populi Romani の聖母の画像の前での祈りのうちに一致します。私たちはローマを訪れる全ての巡礼者たち、および聖年の年にこの教会でマリア霊性の聖年をお祝いする人たちと共にこの祈りの日を祝います。

祈りの日は 10 月 12 日に祝われることを思い出してください、この日はまた、シャミナード神父列福 25 周年について感謝を行うノベナの祈り（10 月 4－12）の最終日です。前にお知らせしたように、この日のために皆さんに届けられた祈りの資料を、ノベナ最終日として活用するようお勧めします。

聖なる神の民を志向するマリア会の『生活の規則』

ホセ・マリア・サラベリ神父（1926－2018）は 1981 年のリンツ（オーストリア）の総会で 11 代総長に選ばれました。マリア会の『生活の規則』の最終草案が作成されたのはこの総会においてでした。彼はこの新しい会則を知らせ、愛させ、そして実行させる任務を与えられました。総会文書の付録 35 で、総会は全マリア会員に全身全霊を挙げてこの会則を受け入れるよう促しました。知的に知ることでは不十分です、この新しい会則は、批判ではなく、開かれた心構えで、信仰と祈りをもって受け入れられねばなりません。この会則はマリア会の精神への回心を求めています。要するに、この会則は個人と共同体の聖化への神からの呼びかけでした。

事実、マリアニストのアイデンティティなしに、また個人的、集团的の聖性なしにはバチカン公会議の精神による刷新はないというのが、サラベリ神父の確信でした。彼は修道者たちに、マリアニスト・カリスマのこの新しい表現—すなわち 1983 年の『生活の規則』—を生きるためには、聖なる修道者が求められている必要だと教えました。これは、11 月 1 日、

意義深くも諸聖人の祝日に彼がその最初の回章で述べたことです：「新しい『生活の規則』は聖人を求めています」；そして彼は彼の修道者たちに聖性を望むよう執拗に勧めることになります。そのため、彼はその総長職の目標の中でマリアニスト修道者の徳と殉教の新しい列福・列聖調査の開始を推進しました。この計画の助けとなるために、1982 年、彼はエンリケ・トーレス神父（1934 生）を列聖請願総代理として任命しました。彼はスペイン人殉教者、ギャップ神父、ファウスティーノとドミンゴ・ラサロ神父の列福列聖調査を開始しました；これに加え、彼はアデル・ド・バッツとマドモアゼル・ド・ラムルースの調査資料を起草する作業でジョセフ・ヴェリエ神父（1904–1993）を支えました。

1983 年の『生活の規則』は、奉献生活の聖性は各修道者と同じく修道会の社会的、制度的団体にも属することを教えています。これが 33 条に読めることで、そこで次に明言されています；「奉献生活は教会の聖性と不可分に結ばれている」；また「私たちが愛し、聖性へと招かれる神は、私たちの個人的生活および共同体の生活を、聖者の民のあかしに変えることがおできになると私たちは知っている」。；そして次の 34 条は、こう説明しています：「私たちが共同体の生活を送るのは、神の愛の証し人となり、聖性に進み、福音の使命を全うするためである」。



聖人と認められた聖性は神の民の聖性の現れです；すなわち、教皇フランシスが言っていたように、私たちの傍の知られていない非常に多くの聖人たちの聖性の現れです。従って、マリアニスト列聖請願総代理の列福・列聖調査は聖者の民の氷山の一角でしかありません。あえて聖なる者になりましょう；こうしてこそ、私たちの尊者や福者たちの列福活動は成功するでしょう。

最近の総本部通信

- 訃報：16–19 号
- 9 月 2 日：“いのちの約束”の道を歩む－書簡第 3 号、総長評議員会から 3 ヶ国語で全会員に送付
- 9 月 9 日：マリアニスト世界祈りの日－2025 年 10 月 12 日、マリアニスト家族世界評議会から 3 ヶ国語で全マリアニスト家族へ送付
- 9 月 12 日：2025 年マリアニスト連帯基金（MSF）と 2025 年マリアニスト養成基金（MFF）、財務局長、ジェローム・バラキエマから 3 ヶ国語で全行政単位責任者と財務補佐あて送付

総本部日程

- 9 月 29 日－10 月 30 日：総長評議員会が東アフリカ地区を訪問